

リーディングDXスクール事業【実践事例】

幸手市立幸手中学校

【取組内容①】「デジタルポートフォリオ」を活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

概要

自分の学びを自身で振り返り、生徒相互で見合い・学び合う機会創出のため、クラウド上で白紙の段階から共有されたデータを使用した「デジタルポートフォリオ」を学びの足跡として残していく。生徒たちは機会ある毎に他者の学びから自身の学びを振り返ると共に、学びの記録の将来への活用等よりよい学びへとつなげていく。

ねらい

考えるテーマ、課題を明確にし、思考・検索・編集・まとめ等の自らの学びの時間を確保し、その学びの過程や成果を記録に残す。

更に、他者と共有し合いながら、相互が自らの学びを更に深めたり、グループの考え等を構築したりする機会創出をICTの活用を通してねらう。

Before

ノートやファイルに記録・保存
残し方がまちまち

▶

After

3 ギガジュール=30億ジュール
毎秒!!
・重量3万6千tを8.5m持ち上げる
・715tを秒速92m=時速330kmで動かす
1秒で「のぞみ」号の最高速度の時速300kmを超える
時速330km

有価物質を取り込みやすい
プラスチックが劣化して細くなったもの
マイクロプラスチック

Point!

なくなりやすい 増えると大変

クラウドで一元管理

半永久的に保管可能

中学校卒業後は個人クラウドへ

成果

従来のノート・プリントだけでなく、端末やインターネットを活用することにより、広く・深く自身の学びを認識することが可能となった。

生徒の自己有用感や積極性の醸成にもつながり、将来に向けた武器となることの気付きを得られた。

課題・展望

何をどう記録し、将来にどうつなげるのかの見通しが不明確であり、次年度の課題である。卒業後、個人クラウドにデータを移行し、生涯に渡る財産（高校入試や大学受験、就職などに向けた自分の学びや人生の歩みを語れる資料と経験）にもなり得るといことも視野に入れていく。

約束

- ① 日付
- ② やったこと、思ったこと、感じたこと、成果など
- ③ デザインや画像、動画挿入などは自由（著作権、出典等デジタル・シティズンシップで学んだことは、しっかり守る）

視点の明確化

クラウド保管の意義理解